令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 単元ごとに小テストを行い、語彙力や新出文法の定着を図った。普段の授業の中でのペアワークなどの言語活動や書く活動をパートごとに取り入れ、表現力向上に取り組んだ結果、全国平均よりも1年生は、2.4ポイント上回り、2年生は6.3ポイント上回り、3年生は5.9ポイント上回った。

(2) 課題

- ・ 1年生は、基礎の学力を維持しながら、応用力を身に付ける必要がある。また、場面に応じた英作文を書く力の伸長を図る。読むことに関しては、長文の要点をつかむことができるよう、指導していく必要がある。
- ・ 2年生は、基礎の学力を維持しながら、さらに活用能力を身に付ける必要がある。特に読むことに関しては、様々な英文を読み取る力を、書くことに関しては、場面に応じて自分で英作文を書く力の伸長を図れるよう指導していく必要がある。
- ・ 3年生は、読むこと、また聞く力の伸長を図る。さまざまな文章に触れ、さまざまな英語表現に慣れていく必要がある。また、語形・語法の知識理解を高め、英作文を書けるように、生徒に表現する機会をもたせる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体として、目標値から10.4ポイント上回っている。領域別に見ると、聞くこと、書くことが、読むことに比べて正答率が低い。	/	/
第2学年	全体として、目標値から13.1ポイント上回っている。領域別に見ると、すべての領域で目標値を上回っている。聞くことは書くことよりも、書くことは読むことよりも正答率が高い。観点別にみても、すべての観点で目標値を上回っている。思考・判断・表現の観点がその他の観点に比べて低くなっている。	全体として、目標値から12.4ポイント上回っている。領域別に見ると、すべての領域で目標値を上回っている。聞くことは書くことよりも、書くことは読むことよりも正答率が高い。観点別にみても、すべての観点で目標値を上回っている。思考・判断・表現の観点がその他の観点に比べて低くなっている。	/
第3学年	全体として、目標値から12.4ポイント上回っている。領域別に見ると、聞くこと、読むことに比べて、書くことの正答率が低い。観点別に見ると、主体的に学習に取り組む態度が他の観点に比べて低い。	全体として、目標値から3ポイント上回っている。領域別に見ると、書くことは、聞くこと、読むことに比べて低い。観点別に見ると、語形・語法の知識理解が他の観点に比べて低い。	全体として、目標値から5.9ポイント上回っている。領域別に見ると、書くことは、聞くこと、読むことに比べて低い。観点別に見ると、外国語表現の能力が他の観点に比べて低い。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも12.3ポイント上回っている。アルファベットの読み方、場面ごとの会話について、理解が乏しいものがある。	目標値よりも4.4ポイント上回っている。資料を見て自分のことを表現する問題での正答率が低い。	目標値よりも3.1ポイント上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも12.8ポイント上回っている。語形・語法の知識・理解の問題の正答率が低い。	目標値よりも13.7ポイント上回っている。場面に応じた英作文での正答率が低い。	目標値よりも12.2ポイント上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも11.1ポイント上回っている。語形・語法の知識・理解の問題の正答率が低い。	目標値よりも14.8ポイント上回っている。場面に応じた英作文での正答率が低い。	目標値よりも18.3ポイント上回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、語彙・文法の定着を図る。教科書本文を基本として、様々な題材の長文を取り入れる。また長文の要点をつかめるように指導する。	既習事項を使用して自分の力で表現できるように普段から指導していく。与えられた場面に応じて、まとまりのある文を書けるような活動を取り入れる。	普段の授業の中で、臆せず英語を使える雰囲気を作り、自信をもって英語を使えるよう意識的に取り組む。同時に生徒への投げかけは英語で行い、生徒にも英語で返答させるように努める。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、語形・語法の定着を図る。既習の単語や熟語を適切に使えるように指導していく。	ある場面を設定して、自分の力で適切に表現する力を普段の授業で指導していく。また様々な文章に触れさせ、読み取りや、表現を学ぶ活動を取り入れていく。	授業内で、間違ふことを恐れずに英語を声に出してみるように生徒に声掛けを行う。また、生徒への指示は継続して英語で行い、日本語で細かく訳しすぎず、理解しようとする気持ちを育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、語彙・文法の定着を図る。既習の単語や熟語を適切に使えるように指導していく。また、適宜復習問題を取り上げ、既習事項の復習も行う。	問題演習を通して、リーディングのやり方を身に付けさせる。また、英作文やスピーチ活動を通して、自分の考えを表現することの意識を高め、適切に表現できるように指導していく。	新出事項の導入では、スモールステップで指導し、生徒が自信をもって活動に取り組めるようにする。また、回答の仕方を指導することで、記述式の問題に対して、抵抗感をなくすように指導する。